

自治医科大学附属病院で発生したセレウス菌による血流感染症について、本日（9月13日）、県政記者クラブ内で記者会見を行いました。この会見では、この問題の事実経過、取った処置とその結果、今後の対応策などについて公表致しました。通常の末梢静脈点滴ラインからの菌侵入や通常のリネン類の高度汚染が疑われるなど、今までほとんど報告されていなかった事態に我々は直面していると認識しています。セレウス菌が血液中に検出された患者様のなかに、不幸な転帰をとられた方がおられることに対して、どの程度の因果関係が推定できるか現在調査中です。いずれにせよ、このような結果になったことを心よりお詫び申し上げます。

患者の皆様に安心していただける安全な医療を提供することは我々の最も大切な使命であります。今後の調査で明らかになった事実を逐次 web 上で皆様に広く伝えることによって、より安全な医療の確立に貢献したいと考えます。

自治医科大学附属病院  
病院長 島田 和幸